

## 第8回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。（ただし、いつか活字になるかも(?)しれません。お約束できませんが……）

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、インフォメーションに記載の書籍等をご覧下さい。

2006年 1月 27日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

[jin-ogura@management-dynamics.co.jp](mailto:jin-ogura@management-dynamics.co.jp)

### 問題発生部位に丸を描いて、そこだけで「なぜ1」を考えてみよう

「なぜなぜ分析」を進めていくときの最初の大きな壁は、出だしの「なぜ1」をどう捉えるかということではないでしょうか。

拙著では、「なぜ1」は問題を発生させる原理・原則（つまり根本要因）を記述することと説明していますが、なかなかこの表現だけではわかりにくいものです。

そこで、最近セミナー等で私が申し上げていることのひとつに、「発生部位に丸を描いて、そこだけで「なぜ1」を考える」があります。

私たちは、発生部位だけを見ているつもりでも、意外に大きく（または広く）捉えていることが少なくありません。

「鉛筆の芯が折れた」という事象に対し「なぜ1」を考える場合、折れた芯の部位だけを見て「なぜ1」を考えれば、そんなに難しくはないのですが、鉛筆を握っている手の方までを視野に入れて検討しようとする、どこから「なぜ1」を考えればよいかわかりづらくなり、考え方が散漫になります。

もっとわかりやすく説明すると、「鉛筆の芯が折れた」の文には、握っている「手」や「紙」は登場せず、「鉛筆の芯」しか登場していません。だから、まずは、「鉛筆の芯」で、かつ折れた部位に着目し、一つひとつ「なぜ」を考えていけばよいのです。

「なぜなぜ分析徹底活用術」では、子供が泣いているという事例を紹介しています（41ページ）が、それを例に取り上げて説明しましょう。

そこには、「なぜ子供が泣いているのか」という問いかけと、その状況を表した絵があります。この問いかけに対して「なぜ1」を考えるときに、まず問いかけ文に出てくるモノや事柄には何があるのかを考えます。

この場合、「子供」ということになります。この時点で、他のモノや事柄についてはとりあえず伏せておきます。

さらに、問いかけには「泣いている」とありますので、さらに焦点を絞り込んで「泣いている顔」に着眼します。

そして、その部分、つまり子供の顔に丸を描いて、そこだけで「なぜ1」を考えてみます。

そのときに、「泣く」を発生させる根本要因を、原理を念頭に（この場合は「感情が働いた」ということ）、それに基づく原則（この場合は「悲しい」「痛い」「くやしい」といった感情）を考えてみればよいのです。

ぜひ、「なぜ1」を考える前に、この「丸をつける」ということをお試し下さい。きっと「なぜ1」を考え

る際の手がかりになると思います。

ただし、この方法は、その状況を絵に書けるような場合に適したやり方であり、事務のような目に見えない中で仕事が行われているものを取り上げて「なぜなぜ分析」する場合には、あまり適さないと思います。

以上